

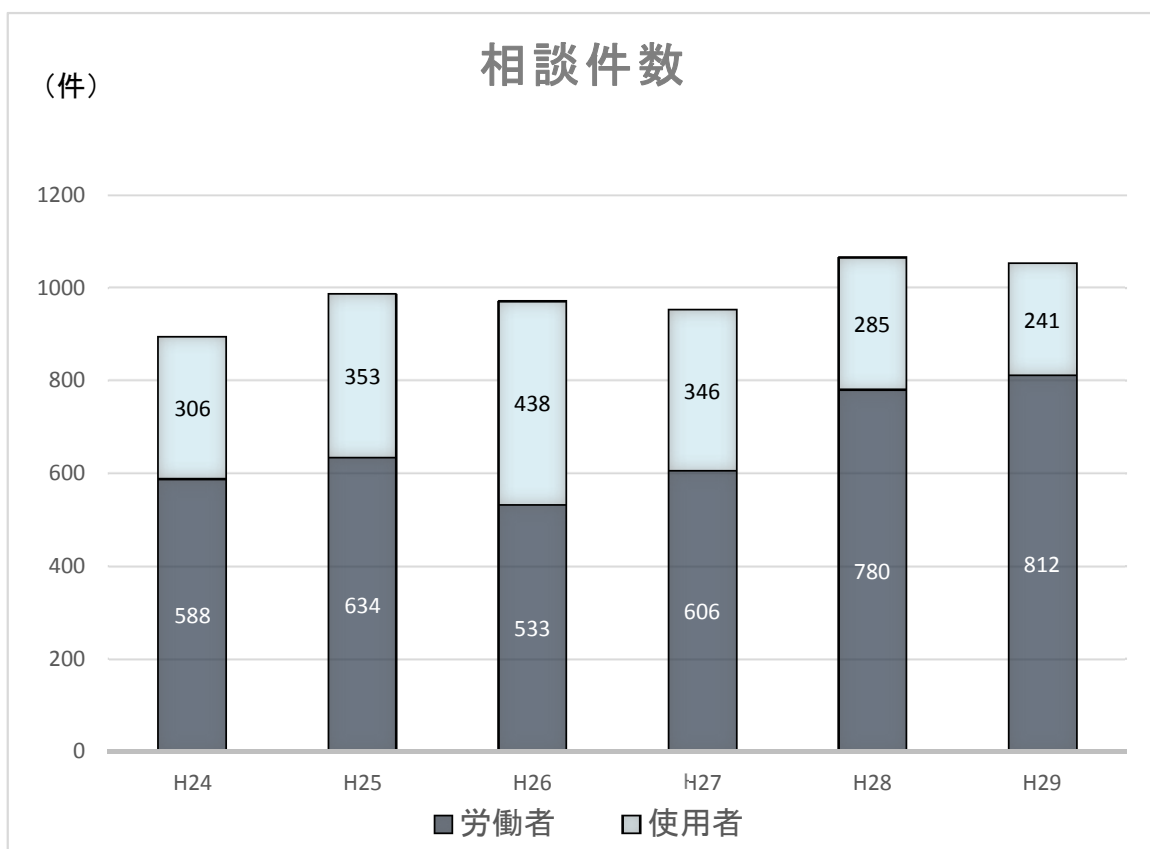
1 労働相談件数

平成29年度の労働相談件数は1,053件で、前年度と比べると12件減少、1.1%の減となったが、2年連続で1千件超えとなった。

図-1 (件)

年度	24年	25年	26年	27年	28年	29年
労使別						
労	588	634	533	606	780	812
(構成比)	65.8%	64.2%	54.9%	63.7%	73.2%	77.1%
(対前年度比)	114.8%	107.8%	84.1%	113.7%	128.7%	104.1%
使	306	353	438	346	285	241
(構成比)	34.2%	35.8%	45.1%	36.3%	26.8%	22.9%
(対前年度比)	129.7%	115.4%	124.1%	79.0%	82.4%	84.6%
計	894	987	971	952	1,065	1,053
(対前年度比)	106.9%	110.4%	98.4%	98.0%	111.9%	98.9%

図-2

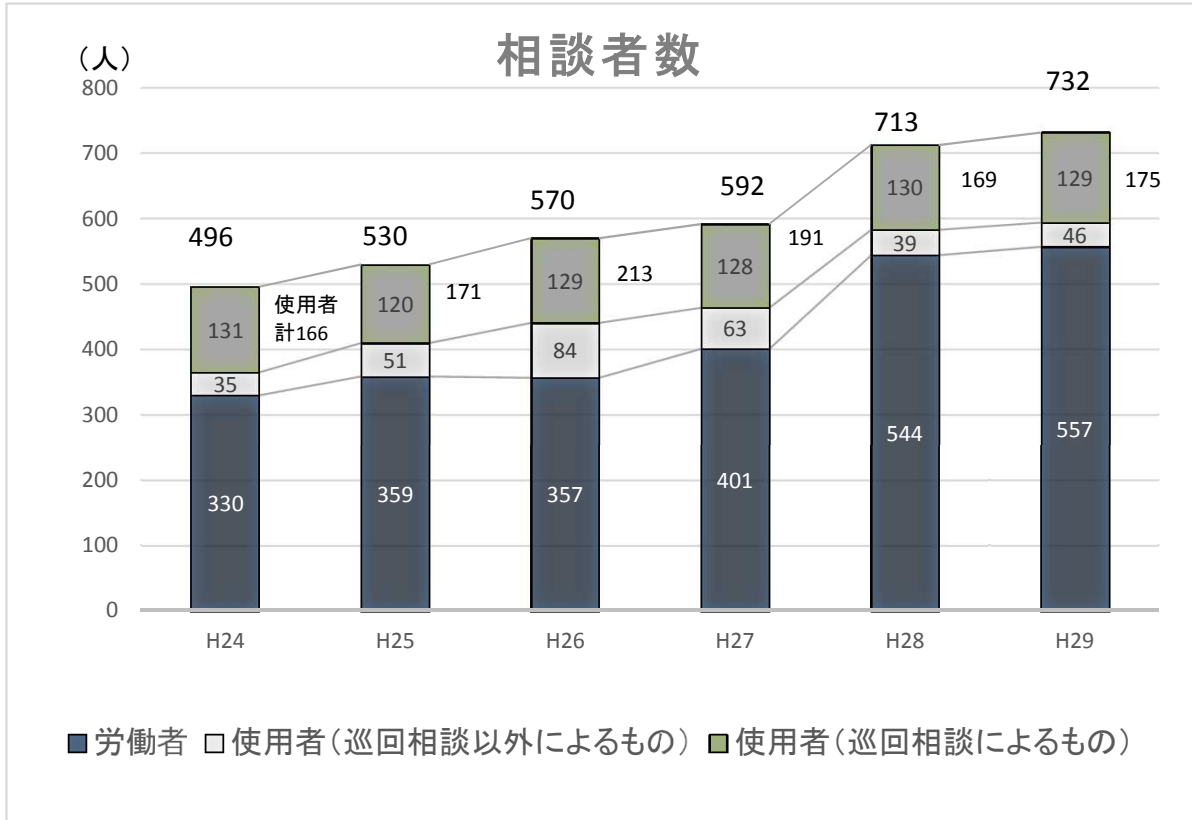


2 労働相談者数

平成29年度の労働相談者数は732人と、前年度の713人に対して19人、2.7%の増となった。うち、労働者からの相談が557人であり、前年度の544人に対して13人、2.4%の増であった。

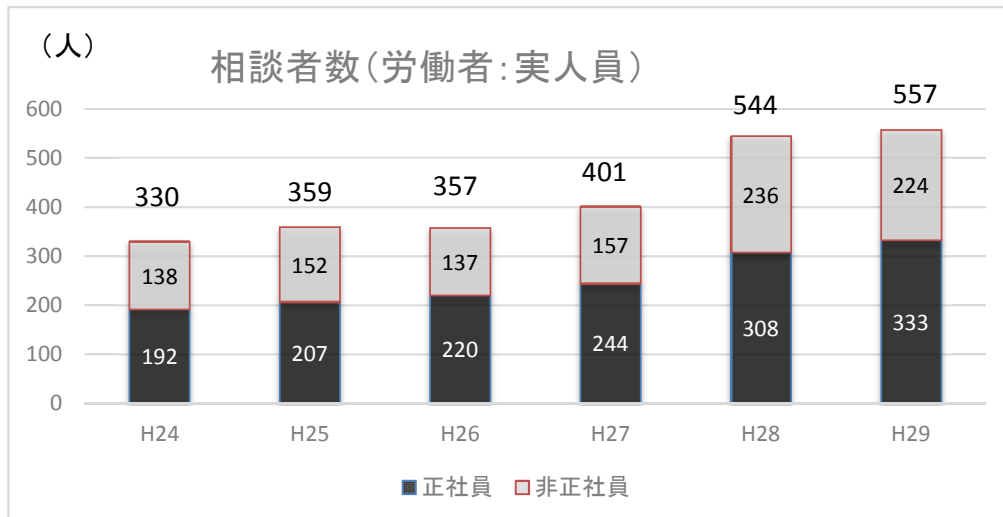
平成24年度から毎年増加しており、使用者からの相談は年ごとに増減はあるものの、ほぼ横ばい傾向にあるが、労働者からの相談は増加傾向にある。

図-3



労働者からの相談のうち、正社員からの相談は毎年増加しており、非正社員からの相談は平成27年度までは年ごとに増減はあるもののほぼ横ばい傾向にあったが、平成28年度に大幅に増加し、平成29年度は微減となった。

図-4



3 相談内容別件数(労働者)

労働者からの相談のうち、最も多かったのは「労働条件」であり、次いで、パワハラ・いじめなどの「人間関係」となった。

最も多かった「労働条件」の内訳では、「賃金」、「労働時間等」、「退職金」、「解雇等」の順で相談件数が多かった。

図-5

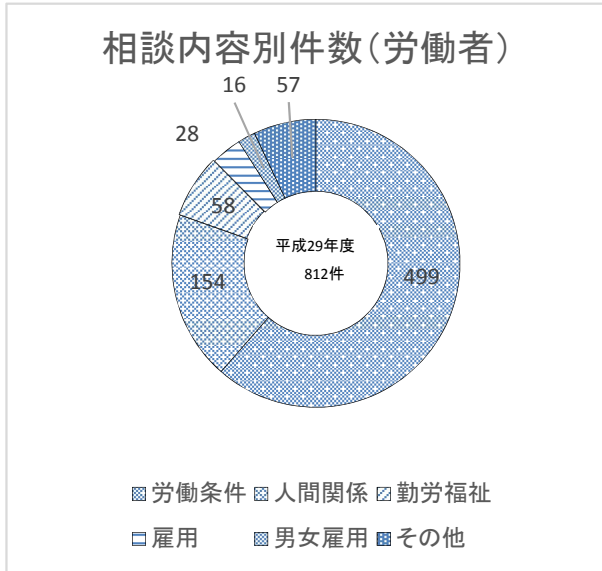


図-6

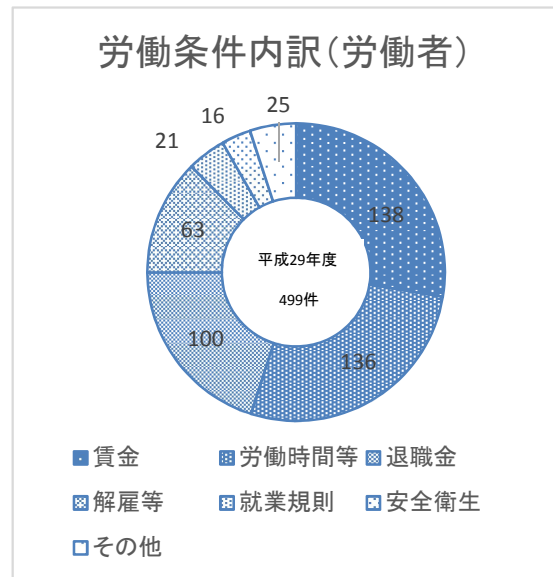


図-7

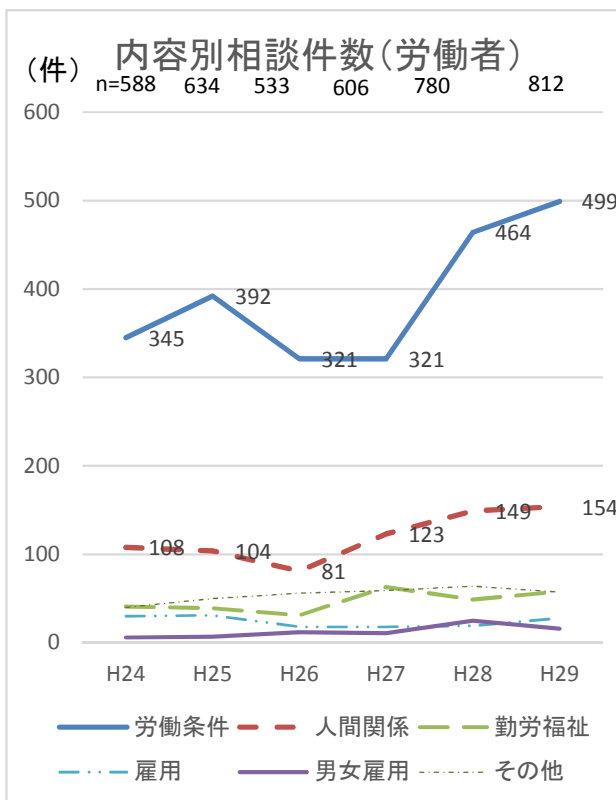
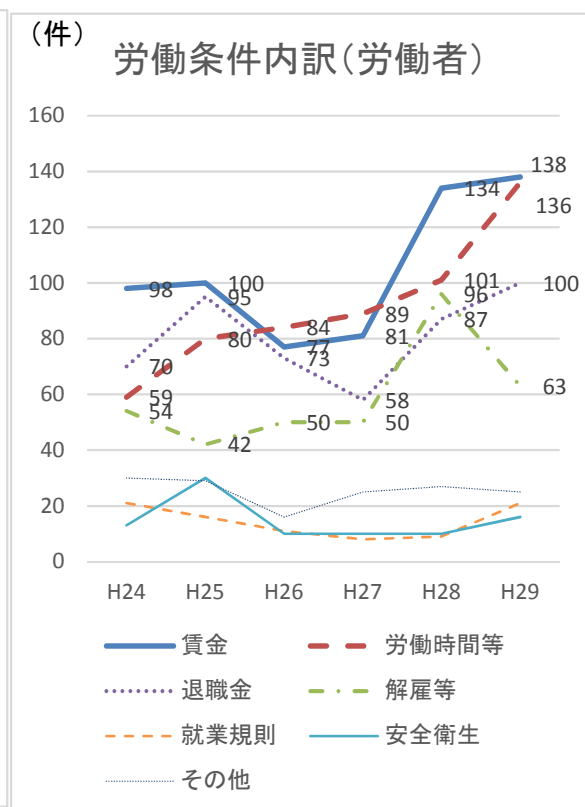


図-8



4 相談内容別件数(使用者)

使用者からの相談のうち、最も多かったのは「労働条件」であり、次いで、高齢者雇用・配置転換などの「雇用」となった。

最も多かった「労働条件」の内訳では、「労働時間等」、「賃金」の順で相談件数が多かった。

図-9

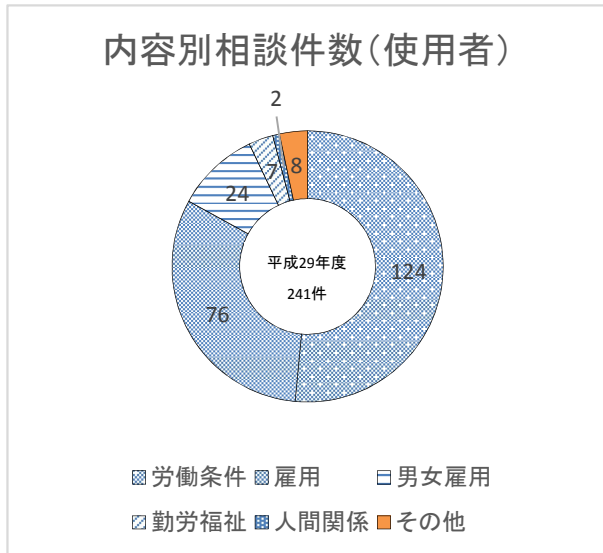


図-10

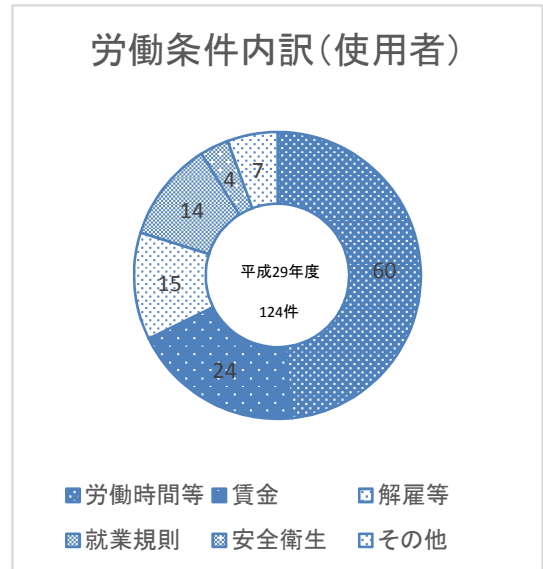


図-11

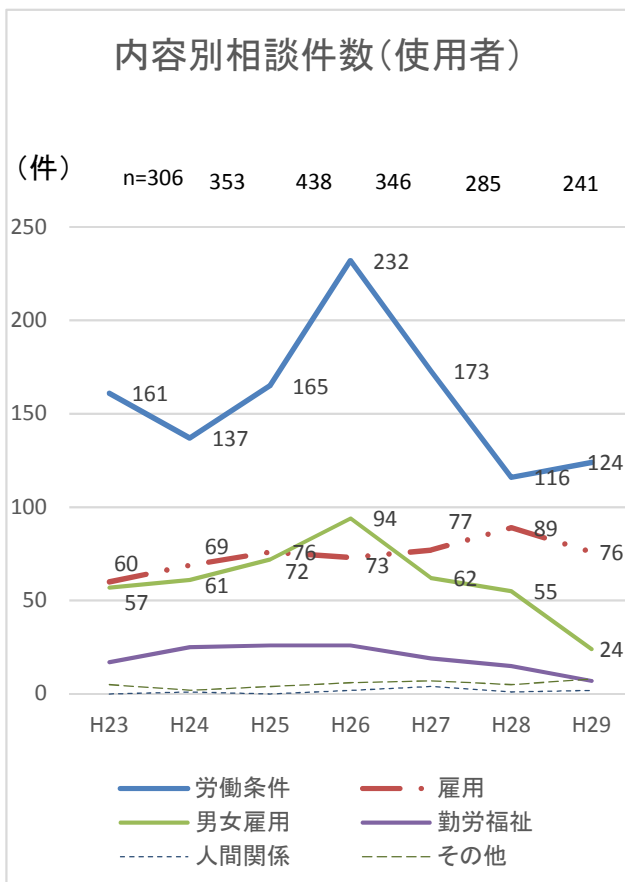


図-12

